

# 世界の中の秋田蘭画

この企画展は視覚文化である秋田蘭画を世界史の大海原から学際的に探ってみようとするものです。秋田蘭画は18世紀に生まれた日本初の西洋風絵画です。江戸時代は鎖国にもかかわらず、オランダの東インド会社との交易を通じて蘭学の花を咲かせます。秋田蘭画はその副産物とみなされています。視覚文化遺産である秋田蘭画作品は概して日本での東西の出会いを物語る限定された地域の一つの逸話としてのみ理解されがちです。しかし、ただ単に辺境の一過性の儂い話として終わるものではありません。もしシルクロードの時代を第一期のグローバル化時代と捉えるのであれば、大航海時代は第二期グローバル化時代と言え、当時発達した自然科学・博物学は17・18世紀までに、広汎にまさしく地球規模に流布しました。秋田蘭画をこの水平線上で俯瞰すると時空を越えたヨーロッパ大陸の様々な文化に繋がっているのが判ります。例えばフランスのシャンボール城内のレオナルド・ダ・ヴィンチ原案の二重螺旋階段、デンマーク王宮・フレデリックス城大理石ギャラリーの神話浮彫り彫刻、ヤン・ブルーゲル原作銅版画《良きサマリア人》、そしてジャポニスムです。このように、この展覧会では地球規模の美術史の中に繰り込まれた秋田蘭画の新たな語りを提案します。秋田藩大名と藩士で成る若きエリート達は舶載書や銅版画から独学で西洋の遠近法等の画術習得に挑み、日本の伝統、そして当時の中国からの写実的な花鳥画の要素を融合させました。この写実的細部と西洋のイリュージョニズムが、伝統的な主題にマッチし、強いパイオニア気質を持つ秋田の侍画家達によって新しいタイプの躍動的な絵画が生まれました。秋田派の誕生です。非常に洗練された技術と絵画作品としての高い価値、そして歴史的意義から秋田蘭画は日本の文化そして芸術のアイコンとして見なされるべきでしょう。

## パネル表題:

- 1/ 秋田蘭画とは
- 2/ 江戸時代の視覚革命と秋田蘭画
- 3/ 小田野直武 挿絵 『解体新書』
- 4/ 佐竹曙山作 松に唐鳥
- 5/ 小田野直武作 鷹
- 6/ 佐竹曙山作 湖山風景図
- 7/ 小田野直武作 三つまたの景
- 8/ 小田野直武作 不忍池図・芍薬花籠
- 9/ 秋田蘭画の発展 画論と舶載本
- 10/ 秋田蘭画写生帖
- 11/ 佐竹曙山 二重螺旋階段図
- 12/ 秋田蘭画派の光と影

